
遊戯王GX ~ シンクロ、エクシーズむしろつかいたいわ！！

ランサー

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX（シンクロ、エクシーズむしろつかいたいわ！！

【Nコード】

N0523BA

【作者名】

ランサー

【あらすじ】

わけもわからず死んでしまい気がついたら……よくある転生ものがたりですが主人公はシンクロもエクシーズは使いませんがアンチではありません。

しかしオリキャラは使うので了承してください。

試験

俺の名前は、秋行人あきいくと決闘が大好きなどどこにでもいる人間だ、まあそんな俺も変わったことが、あるんだよな……それは俺は転生者だ！！

まあ、二次小説にある転生者に俺はなってしまったのだ、俺は普通に学校の帰り道に歩いていたらなんか車に引かれた、気がいたら死んで赤ん坊になっていていた、無論、赤ちゃんになっていたから赤ちゃんプレイという羞恥心を受けたわけだが……（汗）

話がそれたな、まあ突然こっちの世界にきたからシンクロやエクシーズなんかもっているはずもなく俺は、この世界にあるカードを集めてデッキを組んだ、デュエルモンスターズについては、この世界は決闘が全てを決める感じなので俺の親は、なんの問題もなく決闘をすることを認めてくれた。

さて、そんな俺も中学の卒業まじか進学先は、もちろん、デュエルアカデミアだ！！

めざせプロ決闘者！！この世界にきたんだから大好きなことに全てを注ぎたいからな！！

そして俺は試験会場にいる。

「次、受験番号!!20番!!」

どうやら呼ばれたようだ、さていきますか。

「よろしく、お願いします」

「礼儀が、いいな全力でかかってきなさい」

試験官らしき人物にあい互いにデッキをセットする。

「決闘!!」

行人 4000

試験官 4000

「私の先行ドロ」

あ、先行とられた、まあこの世界はやったもん勝ちだからなしょうがないか。

「私は、『デーモン・ソルジャー』を召還」

レベル4

デーモン・ソルジャー

ATK 1900

「さらに私は『黒いペンダント』を『デーモン・ソルジャー』に
装備して攻撃力を500ポイントアップさせる。」

デーモン・ソルジャー

ATK 1900 2400

「私は、これでターンエンドだ」

試験官

フィールド

デーモン・ソルジャー 黒いペンダント装備

伏せカード 無し

「俺のターン、ドロー！」

やべ、転生前のデッキならこんな展開、普通だからなんともおもわ
ないんだが、今のデッキはマジできついからな。

今の手札であいつを倒せるカードがないや、仕方ない。

「俺は魔法カード『天使の施し』を発動、デッキからカードを三枚
ドローして二枚捨てる。」

俺が施しを使ったら会場が……………。

「何だ、手札事故か」

「よく、あんなデツキでよく試験うけたな」

やかましい！施しを馬鹿にするな！！このカードはマジで鬼畜カードなんだからな！！

「手札事故か、そんな決闘では試験は受からないぞ」

あんたもかい！まあこの世界はあまり初手から手札交換を好まないから仕方ないか。それに倒せるカードがなかったのも事実だからな。けど施しのおかげで倒せるカードでた、まあ直ぐに退場しちゃうけど。

「俺は魔法カード『思い出のブランコ』を発動このカードの効果により俺は墓地に存在する通常モンスターを墓地から特殊召喚します」

「まで墓地にモンスターが存在するはずは……まさか!？」

「そのまさかですよ『天使の施し』で捨てた『ゴキガ・ガガギゴ』を特殊召喚!!」

レベル8

ゴキガ・ガガギゴ

ATK 2950

周りの観客は驚いていた、どうだ施しなめんなよ、この時代のカー

ドでも墓地肥やしはいきるんだよ！

「俺は『ゴキガ・ガガギゴ』で『デーモン・ソルジャー』を攻撃！
！いけ、え〜と…バーサーカー・クラッシュュ！！」

とりあえず思いついた技名を言つて『ゴキガ・ガガギゴ』は言葉にならない雄たけびを上げて『デーモン・ソルジャー』に突進して『デーモン・ソルジャー』は勢いよく吹き飛ばされ塵となった。

試験官 4000 3450

「く…………やるな」

いちおう倒せたけど。

「カードを一枚伏せてターンを終了しますが『思い出のブランコ』の効果で墓地から特殊召還した『ゴキガ・ガガギゴ』は破壊されません。」

ゴキガ・ガガギゴは塵となって消えた。

行人

フィールド

無し

伏せカード 一枚

「私のターン、ドロー！私は『カイザー・シーホース』を召喚」

レベル4

カイザー・シーホース

ATK 1700

「『カイザー・シーホース』で、ダイレクト・アタック！」

「畏カード発動『攻撃の無力化』このカード効果により相手モンスターの攻撃を無効にして、バトルフェイズを終了させます」

「なら私はカードを一枚伏せて、ターンを終了する。」

試験官

フィールド

カイザー・シーホース

伏せカード 一枚

「俺のターン、ドロー！」

さて『カイザー・シーホース』は、いけにえをひとつ減らせるからな下手に残すことはできないな。

「俺は『闇魔界の戦士 ダークソード』を召喚」

レベル4

闇魔界の戦士 ダーク・ソード

ATK 1800

「俺は『ダークソード』で『カイザー・シーホース』を攻撃、まかい魔界
だんくうざん断空斬!!」

『ダーク・ソード』は『カイザー・シーホース』に切りかかる。

「甘い!私は畏カードを発動『炸裂装甲』相手モンスターが攻撃宣言時に発動して攻撃してきたモンスターを破壊する『ダーク・ソード』を破壊!!」

『ダーク・ソード』は吹き飛ばされ塵となった、そう簡単に攻撃は決まるわけではないか。

「カードを二枚セットして、ターンエンドです」

行人

フィールド

無し

伏せカード 二枚

「私のターン……(ニヤリ)」

いま、ニヤリって笑わなかった！！わかりやすいくらいに！！

「私は『カイザー・シーホース』を生贄にささげ私は『エメラルド・ドラゴン』を召喚！！」

レベル6

エメラルド・ドラゴン

ATK 2400

おい、ニヤリって笑うからすげー強いモンスターかと思ったかエメラルドか！！

だったらなんで、カイザーを得意げにリリースしたんだよ！！

「私は『エメラルド・ドラゴン』でダイレクト・アタック！エメラルド・ファイヤー！」

エメラルド・ドラゴンの炎がこっちにむかってくる！！

「アチ！アッチイな・・・おい！！」

行人 4000 1600

おいこれ、ソリッドビジョンだよな……なんか熱かったぞ！！

「私は、これで、ターンを終了する」

試験官

フィールド

エメラルド・ドラゴン

「俺のターン、ドロー！」

お……決まったな。

「俺は、魔法カード『死者蘇生』を発動、これにより墓地からモンスターを特殊召喚するぜ！」

「なに！『ゴギガ・ガガギゴ』を召喚するのか！」

いや、まだ召喚しない。

「俺は『闇魔界の戦士 ダークソード』を墓地から召喚！」

レベル4

闇魔界の戦士 ダークソード

ATK 1800

会場から「プレイングミスだな」と呆れられたり馬鹿にされたが、最後までみてからいえー！！

「あせったな、プレイングミスをするとは」

はい、もういいなれたー！！

「俺は装備魔法『グレード・ソード』を發動して『ダークソード』に装備」

闇魔界の戦士 ダークソード

ATK 1800 2100

「それでも攻撃力は届かないぞ」

「いえ、これで逆転しますよ俺は『ダークソード』をリリ…もとい生贄にささげ『バスター・ブレイダー』を召喚だぜ！」

レベル7

バスター・ブレイダー

ATK 2600

「な、なんだと『バスター・ブレイダー』！」

試験官も驚き会場の生徒も驚く、アッチではたいした価値はないがこっちでは違う理由は『バスター・ブレイダー』はキング・オブ決闘者である遊戯が海馬と戦ったレアカードでありメジャーなカードであるため、かなり有名なレアカードとして認識されている。

「だ、だが『バスター・ブレイダー』七つ星のモンスター何故、生贄が一体だけで？」

「『グレード・ソード』の効果です『グレード・ソード』を装備し

たモンスターを生贄にした場合、戦士族の生贄を一体、減らせるんですよ」

てか、試験官ならそれくらいわかれ。

「永続罫、発動『リビングゲットの呼び声』俺はこの効果で『ゴギガ・ガガギゴ』を墓地から特殊召喚するぜ！」

レベル8

ゴギガ・ガガギゴ

ATK 2950

まあ別に、エメラルド召喚したときコイツをだせば、ダメージ受けなかったただけ念のために発動しなかった、けどもうリスクはないから派手にいくぜ！

「『バスター・ブレイダー』の効果で相手フィールド上及び相手の墓地に存在するドラゴン族、一体につき攻撃力が300ポイントアップするぜ！！」

バスター・ブレイダー

ATK 2600 3100

「行くぜ！『バスター・ブレイダー』で『エメラルド・ドラゴン』を攻撃！竜殺しの剣！！」

試験官 3450 2750

「ぐ……」

「続けて『ゴギガ・ガガギゴ』でダイレクト・アタック！バーサーカー・クラッシュユー！！」

「ぐあああああ！！」

試験官 27500

よし何とか勝てたこれでアカデミアに入れるぜ！！

「ありがとうございます！！」

俺はちゃんと頭を下げる。

「試験の結果は後日、届く、いい決闘だったよ」

こうして俺は無事に試験が終了した。

俺は客席に戻ろうとした。

「やあ、受験番号『20番』」

声をかけられた、声をかけられた相手は三沢大地…GXのエアーマンのあだ名で知られる。

「えーと君は？」

一応、初対面なので知らないふり。

「ああ、すまなかつた俺は、三沢大地だ。」

「俺は秋 行人だよろしく」

「君の最後のプレイングはすごかつたな、最上級モンスターを1ターンで二対もそろえるとはな」

「いや、たまたまだよ、それに反省する点もあるし『エメラルド・ドラゴン』に攻撃されたとき、『リビングデットの呼び声』を発動すればダメージも受けなかつたのに」

試験にうかるために慎重すぎたからな、今度からきをつけないとな。

「確かに、そこは俺も思つたな」

「だろ」

俺はそれから三沢と決闘についての議論をしていたが俺は他の決闘を見て唾然とした。

「俺は『レッド・デーモンズ・ドラゴン』でダイレクト・アタック
！！アブソリュート・パワーフォース！！」

レッド・デーモンズを使う決闘者を見てしまい……………。

「『BF・黒槍のブラスト』で攻撃！！」

BFをつかう女性を目撃……………。

「な、なんでシンクロ召喚が……」

まさかあの二人は……転生者なのかよ……俺以外にもいたのかよ……マジでないぜ。

心の声で叫ぶ。

「なんで俺はシンクロが使えないんだああ!!」

二人との待遇の違いに俺は心の中で叫びまくった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0523ba/>

遊戯王GX～シンクロ、エクシーズむしろつかいたいわ！！

2012年1月1日01時47分発行